

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503544		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 参番館		
所在地	札幌市白石区平和通2丁目南6-28		
自己評価作成日	平成26年11月19日	評価結果市町村受理日	平成26年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近所には、歩いていけるスーパーや食堂などがあり、車で5～10分程度の距離には大型スーパーなど生活において必要な物品が揃う環境が整っております。地域に出掛けることを心掛け、一人一人の希望、要望に沿い、入居者様と一緒に買い物や食事などが出来るようにしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0170503544-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0170503544-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 12 月 4 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の外部評価を経て、単純かつ明快な理念への見直しが行われ、玄関とリビングに掲示されています。職員自らの笑顔により利用者の笑顔作りに努めようとの理念は、利用者に対する日常の接し方に特に優れて表れています。職員の努力が利用者との信頼関係を生み出し笑顔となっています。人生の先輩として気楽に楽しい生活を送っていただけるよう職員はお手伝いをしたいと訴えています。利用者の外出の希望には職員とマンツーマンで出かけるなどしています。ケアプランも本人、家族の意見や要望を取り入れながら、対応すべき課題をしっかりと絞り込んでのプラン作りとなっており、非常に判りやすく日々のモニタリングに効果を上げています。安心の暮らしは102歳の利用者の笑顔にも見ることが出来、笑顔に満ちたホーム作りはこれからも継続されることでしょう。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、参番館の理念を壁に掲示し、共有に努めており、日々業務を行っている。	新しく作られた理念は、端的であるが理解しやすく「笑顔作り、わがままでも良い楽しい暮らし、外に出て地域とのふれあい」の3本の柱からなり、職員は常に理念を十分に理解しながら、利用者との暮らしの中でサービスの質の向上に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーや食事処などに出掛けるなど地域との交流を持っている。	近くの公園の散歩、また、スーパーなど大型店への買い物など馴染みの場所では、利用者も知っていただきご挨拶をしています。ホームでは町内会のお世話を頂きながら、地域の一員として交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門学校等の施設実習やボランティアに来られた方などに施設の役割や認知症についての理解を深めていただけるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様や入居者様のご家族様、地域包括支援センター職員、町内会長などに事業所の活動状況を報告し、評価や要望などを聞きサービス向上に活かしています。	町内会の会長、地域包括支援センター職員、利用者、家族などのメンバーにより、定期的な会議の開催が行われホームの現況、行事の報告があり、出席者との質疑応答が議事録に書かれていますが、家族の参加が少なくマンネリ化の傾向です。	家族には運営推進会議の意義を十分に理解してもらい、参加していただくことがホームの運営とサービスの向上につながることを、機会あるごとに啓発すると同時に、新たなメンバーを加えた会議の活性化が必要と思われ、これらの取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の利用状況や事故があった際には、報告書等を作成、提出し、連絡が取れるようにしています。また担当者から連絡があった際には、報告と共に質問等を行い、情報の共有に努めています。	業務上の連絡、また、情報の提供など市の担当窓口とは頻繁な連携を行っています。今後は外部評価で得られた今後の取り組みなどを報告しながら、今まで以上の連携を図ることとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束抑制廃止虐待防止推進委員会に事業所の委員が参加し、委員会での伝達事項を報告するなど、事業所にて身体拘束の無いケアに取り組んでいます。日中は玄関の施錠をしないようにするなど防止に努めています。	身体拘束をしないケアのマニュアルは整備されており、内部の研修会のテーマとして取り上げ、職員みんな周知しながら日々サービスに反映するよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人のコンプライアンスを壁に提示しており、その記載の中においても虐待の定義などを示している。また虐待防止委員会や管理者会議における報告など全ての職員に伝える事で、虐待の防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束委員会からの資料や勉強会を通して学んでいます。ユニットは異なるが事業所で成年後見人制度を使われている入居者様もおられ個々の必要性を話し合い支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの見学や、入居の契約の際不安や疑問に思っている事等を確認し十分な説明、理解、納得をして頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様がいらした際には、入居者様の近況について、伝え、要望や疑問が無いかを確認し、出来る限りのコミュニケーションを取り信頼関係を築けるように心掛けています。	多くの家族はホームに近く居住しており、訪問頻度は多いようで家族との会話の中から意見などをいただきサービスの提供に反映するよう努めています。家族宛の会報は毎月1回作られ送付されておりますが、利用者の笑顔が紙面から溢れんばかりの賑やかな内容で、家族の好評を得ています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度会議を行い、職員からの情報、意見を聞き話し合う機会を設けています。	毎月1度のユニット会議では、職員からの忌憚のない意見交換の場となって、管理者は十分に聞きながら運営に反映するよう努めています。また、ユニット間の情報交換も行われ、二つのユニットを散歩がてら行き来する利用者についても、職員の気配りが見られ、事故の未然防止に効果を挙げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や勤務時間の中で管理者や職員個々の努力、実績、勤務状況を把握し管理者会議等での議題としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内における研修、外部研修、各委員会活動、管理者会議などを行い職員一人ひとりの力量に合った、トレーニングや育成に心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部外などの研修会などに参加する事で他の同業者とのネットワークづくりの活動を通じてサービスの向上を心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の話を聞き、その方の為になることが出来るように努めている。ご本人様の訴えや要望など聞いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様やケアマネージャー、事業所に来る前に入所していた事業所などとのコミュニケーションを通して、ご本人様の要望や困っている事などがあれば伺い、事業所において早期に信頼関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関連する事業所、職員と相談しながらその人が必要としている支援が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできること、できないこと、やりたいことなどを把握し、職員が一方的に支援するのではなく、ご本人様にできることはご本人様にさせていただくなど生活を共にしている等の考えを持っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所での様子をありのままご家族様に伝え、ご本人様やご家族様の要望に耳を傾け、共にご本人様の支援ができるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や入居前に付き合いがあった知人などとの関係が途切れないように、面会に来られた際には、ゆっくりと居室にて過ごすことができるように配慮しています。	利用者のこれまでの生活の中から、馴染みの深い事柄を家族とともに把握しながら、ホームの生活においても継続できるような会話や場を作るよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様の性格などに配慮しながら、孤独感が生じないようにしています。入居者様同士において生活を支え合えるように配慮するとともに、仲違いが生じそうな際には職員が間に入り、仲を取り持つようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による契約終了の際には職員でお見舞いに行くなどしご本人様、ご家族様のフォローなど相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様だけでなく、ご家族様の希望、要望を聞くように努めている。ご本人様の意向を聞き出すことが出来ない際には、これまでのご本人様の生活暦等を考慮し支援している。	ホームの理念にもある「人生の先輩として、わがままでも良い楽しい生活を送っていただく」とあるように利用者の個性をそのまま受けとめて楽しい暮らしを送っていただく雰囲気がホーム全体に感じられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、ご本人様の聞き取りのほか家族、ケアマネージャーなどからお聞きするなどして生活暦を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活を送る中で、ご本人様の一日の過ごし方、考え方、できること、できないことなどを記録などを通して把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、センター方式の作成やご本人様、職員、そしてご家族様などの意見を聞きながら、介護計画を作成している。	利用者及び家族の意向を課題として絞込み、的確なプラン作りが行われており、職員のすべてがプランへの共有を図り、日々のケース記録の中で「笑顔で支える姿勢」が強く覗えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子の中でご本人様が発した言葉や行動などを記録に残し、その様子から伺われるご本人様の思いを把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お買い物に行きたいとの訴えがあれば、近所のスーパーや大型スーパーへ出掛けるなど希望に添えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にあるスーパー、食堂、病院などの地域資源を活用し入居者様に楽しんで頂けるように支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を主に活用しており、急病時などには適切な医療を受けられるように、入居者様やご家族様の希望に基づいて実地し、かかり付け以外にも受診を行うなどもしています。	かかりつけ医の年に1回の健康診断のほか、2月毎の往診により利用者の体調維持が図られています。また、かかりつけ医への通院の際には管理者などが同伴し、他の病院への通院に際しても家族に代わって同伴している場合が多いようです。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診日前には看護師と連絡を取り入居者様の状態を報告している。体調が優れない際は、連絡し看護師等に相談し緊急の往診や薬の処方をして頂いています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も一人ひとりの病歴、薬などの記載したファイルを持参しています。病院関係者と情報交換や相談がスムーズに行えるよう取り組んでいます。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期が近くなられた際には、終末期のあり方について、ご家族さま、医師、ホームとの話し合いを行い入居者様の思いに添えるように支援、取り組みを行っています。	医療連携体制は採られていませんが、利用者の重度化や終末期に際しては、家族や医師とホーム側での度重なる話し合いが持たれ、対応しています。この際の看取りケアに対する方針は家族にも良く理解され同意書が交わされています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDを設置しています。事故発生時に備え施設ににての研修やその他の研修等にも参加しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実地、スプリンクラーの設置、緊急通報システムの登録を行い災害時の備えや、地域との協力体制を築いています。	消防署の協力を得て、年2回の夜間想定を含めた避難訓練行われています。そのほか自主的な訓練が2ヶ月に1回と重要事項説明書に謳っていますが実施回数では不足の状況にあります。また、災害対策に関わるマニュアルの整備も必要です。	火災を想定した避難訓練に限らず、地震への対応など広範囲な災害に備えるためのマニュアルへの見直しの取り組みを期待します。また、自主訓練の励行及び住民の協力依頼など、災害に対する認識の共有への取り組みを期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の居室へ入る際にはご本人様へ声を掛けるようにし、業務において入居者様についてのお話をする際には他人には聞こえないようにしている。	トイレへのさりげない誘導、入浴でのプライバシーの確保など職員はそれぞれのサービスの支援の中で利用者の笑顔づくりとともに一人ひとりの人格の尊重を心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら思いや希望を訴えることが出来る入居者様だけでなく、訴えをすることが出来ない入居者様についてもこれまでの生活や行動をみながら声掛け、お誘いをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を出す時間はほぼ決まっておりますが、体調、気分が優れない入居者様については時間を置いてからめしあがることできるようにしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら着替えをすることが難しい入居者様、思いを訴えることが難しい入居者様についてはこれまでご本人様が好まれてきたおしゃれが継続できるようにしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見守りを行いながら、盛り付けや食器洗い、食器の片付けなどをお手伝いしていただいています。	献立及び食材の調達には業者に依頼していますが、職員により利用者の状況や好みを加味しながら味付けや彩りなど食欲の増す料理が作られ利用者からも好評を得ています。盛り付け、下膳、食器洗いなど利用者も参加して行われています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の身体状況により「きざみ食」や「とろみ食」など、食事の形態を工夫して召し上がっていただいています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて行っています。介助を必要とされる入居者様には、職員が声掛け、介助にて行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	前回の排泄時間をみて、トイレへの間隔が長い入居者様に対しては、声掛け、またはトイレへ誘導しております。	排泄のパターンを熟知しながら、出来るだけトイレでの自力排泄支援がさりげない誘導により支援が行われています。夜間のみりハビリパンツやオムツの着用はありますが、本人の人格を尊重しながら可能な限り自力のトイレでの排泄を継続支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事を踏まえた上で、好みの飲み物やゼリーの活用などで水分摂取していただいています。また便秘の症状が強い際には、かかりつけ医と相談しながらお薬等の調整をしております。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各入居者様の体調やその時の気分に応じながら、入浴していただいています。	利用者には最低でも週2回の入浴をお願いし、身体の清潔保持を心がけています。体調の具合などで入浴を拒む場合も、無理をせず日時を変更しながら入浴を楽しんでいただくことにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様の体調やその時の気分に応じながら、日中は活動的に過ごしていただき、夜間に睡眠が取れるようにしておりますが、体力が低下した入居者様、疲労感が強い入居者様については居室にて休めるようにしております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の服薬内容を記載した用紙を各職員がいつでも見れるように用意しており、薬の変更があった際には、通院ノートへの記載をしております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の好みのものを把握した上で折り紙、塗り絵、裁縫などの他、家事活動を職員と共に行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所のスーパーへのお買い物やお散歩を希望される入居者様がおりますので、その日の天気などを考慮して外出できるようにしております。	利用者の希望する外出の支援がマンツーマンの体制で行われています。近くの大型スーパーでの買い物、公園への散歩、また、花見や紅葉見物、すし屋での外食など様々な外出の機会をつくりながら外気浴やストレスの解消に努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理はご家族様やホームで行っておりますが、金銭の所持を希望される方や入居時より自ら金銭を所持されている方に関しては、ご本人様が所持できるように、紛失しないようにしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話を希望される入居者様がおりますので、その際には電話番号を伝える、時には電話番号を押すなどのお手伝いをして、ご家族様とお話ができるようにしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に同じ装飾でなく、家庭的にそしてその時々々の季節感を感じることができるような空間づくりを心掛けております。季節の変わり目には、トイレや居室など居間などの温度差が生じないように暖房の温度設定をするように心掛けております。	この時期、クリスマスの飾り付けがリビングの方々の壁を賑わしています。また、廊下は利用者の素晴らしい笑顔の写真が壁一杯に貼られて思わず見入ってしまいます。ホームでは温度や湿度に特段の気配りをしながら快適な共用空間作りで笑顔の利用者の暮らしを支援しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話が合う入居者様は、近くで過ごせるように、またテレビをご覧になることが好きな入居者様には近くでみることができるよう居間における座席に配慮しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室における家具などはご本人様の馴染みのものを使うことができるようにしております。しかし、入居の際に、ほとんどの生活道具を揃えた入居者様もいらっしゃり、その際にはご本人様の希望等を聞きながら居室の生活道具を揃えるようにしています。	個人差はあるものの、利用者それぞれが馴染みの生活用品を持ち込み、安心した暮らしの空間を上げています。家族と一緒にの写真、鉢植えの植物、長寿のお祝いの手紙や品々など居室にアクセントをつけた空間となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には、手摺りの設置、トイレ入口には、案内版を手作りし、分かりやすいようにしています。			